

金砂山福田寺と徳山藩士の墓

会員 栗崎 健

寛永元年草創す、明暦四年再建し、観音寺をば改めて、福田寺とぞ名付けける、是ぞ当国拾四番（周防三十三観音霊場）、聖徳太子の御作の如意輪観音菩薩、利生不測と伏し拝み、二世安楽を祈る也。御詠歌に

法の種 野上の里に 時き置きて

花咲きみのる 福田寺かな

（『徳山近辺古跡さがし』より）

時のゆくまま、時代は大変革をなし、人々の生活は一変したが、ここ野上の里、福田寺あたりはいまだのどかな原風景が垣間見える。

さて、その福田寺に、令和二年九月、法令にそった墓地改葬の公告が張り出され、今や、墓所が大きく変わろうとしている。境内には様々な時代の墓碑が所せましと建立され、無縁墓となつている墓碑も多数混在している。改葬の公告により墓仕舞いが進むことが予想され、徳山藩士を研究する者にとっては、時代の趨勢とはいえ非常に残念な思いである。墓碑がひとつ無くなる事は文化財をひとつ失い、歴史がひとつ消える事と思つている。

常々、墓碑が消える前にひとつでも調べておきたいと思つていた私に、現住職と少々縁があったことから徳山藩士の墓碑の調査を任された。全墓碑を調べる事にした。

福田寺は『寺社由来書』によると

「当時金砂山福田寺ハ往古観音寺と申候、寛永元年当所住人野上六左衛門申者、同観音皈依致建立訖、其時住持全甫和尚と申候、其後明暦四年正月三代目周民代再建立、以後福田寺と改申候事」

と、寛保二年（一七四二）、当時の住持より藩に報告されている。本尊の如意輪観世音菩薩輪王座像は、南北朝時代の作といわれ、等身大に近い寄木造りの市指定文化財である。また、山門の両脇に控える仁王像は周南地域では突出して躯体が大きく、堂々としたものである。

現住職は二三世森江信孝和尚。防府市の右田毛利家菩提寺万年山天徳寺の二男で、福田寺先住の遷化後、入寺。未だ四〇歳の若き行動力のある好住職である。今回の改葬については、無縁墓といえども、藩士の墓碑はできるだけ保存できるようにしたいと温かいお言葉を頂いた。江戸時代、福田寺は徳山毛利家菩提寺であった大成寺、杉家の菩提寺興元寺とともに徳山毛利家にとって重要な寺院であった。

宝永二年（一七〇五）毛利家菩提寺大成寺剣水和尚が元次公の痢に障り追放された事件の際、大成寺は無住になり、「龍豊寺建咲院興元寺輪番二被仰付其後十二月二十五日福田寺知郷を当分看坊二被仰付候」と看坊役を仰せ付かっている。その後、再び毛利家菩提寺となった大成寺において毛利家の法要が営まれる際は、度々、出勤を仰せ付かっている。また、明治二年（一八八八）「徳山七士碑」が本城、浅見、信田が殺害された新宮の浜付近に建立された際、毛利公爵家より墓前へ御使者が送られ、香花の典があり、福田寺にも使者が遣わされた。徳山毛利家文書に福田寺の記述は数多くあるが、次の機会に紹介することとする。

徳山藩と共に生きた多くの藩士たちが福田寺を菩提寺としていた。主な墓碑を紹介する。（詳細は一覧表参照）

【家老】 上栗屋／栗屋内蔵次當一族、下栗屋／栗屋内匠次興一族、小幡修禮九臯、奈古屋主水隆充

【藩校教授】 小川乾山、長沼采石

〔武芸家〕 井上棣斎、岩崎反求斎、大野八之丞、木梨三郎、

古志小源太信雄、同信邦、坂幹、田村耕雲、中川半平、

羽仁一閑斎、同一夢斎、福岡敏輔、増野彦九郎、松原

松涛斎、棟居風載、同景雄、同景邦、同保春

〔医師〕 池田耕亭、同好安、桂昌伯、勝屋正栄、長沼玄

珍、同岡鳳、同玄珉、同玄琳、同泰順（娘）、増野意伯、

同松伯、同永伯、同瑞伯、山本玄淑、同東庵、吉村幸

在、同補矩

〔画家〕 小川松泉、奥田蘭雪、桜井文水〔詩人〕、田村耕

雲、棟居五石

〔文学〕 小川瓊斎、同逸堂、桂方直、坂仲礼、桜井蕃翼

〔俳人〕 入澤蝸牛井（妻子）、田村耕雲

〔歌人〕 栗屋繰子、大野直般、桂巴、木梨光忠、佐々木愷護、

同桐園〔国学〕、清水宗親

〔書家〕 中村春秀

〔生花〕 杉原松旭斎、松原松涛斎

〔毛利就隆公乳母弟〕 医師増野良政恕庵

〔毛利就隆公長男千代松丸乳母〕 坂本善左衛門妻

〔藩改易後再興尽力者〕 谷忠右衛門、東喜右衛門

〔幕末正義派血判者〕 井上達次郎、古志直庸、坂幹、佐々

木敏雄、杉原盛裕、同継盛、原田静恒、東縁胤、福岡

駒太、藤井常直、藤村義一郎、同恭、棟居友雄

荒れたお墓の前に立つと、このお墓ができたときは、誰かが、きつと、涙を流したはずなのと思う。合掌

〔参考資料〕

『徳山近辺古跡さがし』徳山地方郷土史研究会

『昭和59年徳山市社寺文化財調査』徳山市教育委員会

『由来書』県庁伝来旧藩記録 山口県文書館

『般若山大成寺録』徳山毛利家文庫 山口県文書館

『寺社町方日記』徳山毛利家文庫 山口県文書館

『徳山名土墳墓掃苔録』兼崎茂樹編集発行 大正八年

『tokyuanahan.com/家臣』栗崎健ホームページ

以下、福田寺において調査した徳山藩士一族の墓碑一覧であるが、紙面の都合上、一部を割愛した。



法の種

野上の里に蒔きおきて

花咲き実る

福田寺かな

本堂の前に新しく建立された歌碑と説明板 <令和3年9月建立>



遺筆『雲龍』



こぼれしは露か涙か筆形見 尚文



河田尚文嘉通（馬廻）嫡男西一佐9歳の墓碑には遺筆が刻まれている。同墓碑の側面には父親尚文の子を想う句が刻まれ涙を誘う。

保存の為、藩士の無縁墓を一ヶ所に移動！